

学校名	新座市立第六中学校
実施日	平成30年1月29日

<記入の仕方>

○「学校関係者評価」の欄には、A~Dを記入してください。

○「学校関係者評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由を記入してください。

評価項目「

(独自項目)」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、生徒一人一人が主体的に学び、活動しようとする態度を養うため、指導法の工夫、改善に努めている。	B	生徒自ら考える力が不足している。また、主体的な活動を取り入れる実践はまだ不足している。そこで、学校課題研究に基づいた授業づくりをすすめた。共通の研究視点で様々な教科の授業を参観し合うことで、自らの授業の在り方を振り返り、成長につなげようとする機運が高まっている。	B	全ての学校が抱える課題である。児童生徒「ひとり一人」の個性を尊重し、学習に集中できる環境を整え、自主的・主体的に活動し「考える力」を養うため学校課題研究に基づき授業づくりをすすめている。共通の研究視点で様々な教科の授業を参観し合うことで、授業のあり方を振り返り、成長につなげようとする機運が高まっている。学び、考えて活動するためには、学習意欲の向上と理解力の正確性が必要となり授業における指導方法の改善工夫していただくことが、学校課題研究の軸として求められている。
2	学校は、特別な教育的ニーズの把握に努め、それぞれの特性に応じた支援を行っている。	B	一人一人の教育的ニーズの把握については、担任任せになっている現状があるものの、課題の共通理解については、特別支援教育コーディネーターを中心に活発に行われるようになってきている。特に、全教員が取り組む情報ファイルは、効果的に活用されている。	B	一人ひとりの教育的ニーズを把握し、特別支援教育の観点から支援体制をつくり、生徒の特性把握に全教員で取り組む姿勢は評価できる。各学級担任が学習意欲向上に前向きであり「ひとり一人」に寄り添った支援に努めている。目録の生徒の行動や音声を意識して真摯に取り組む姿勢が、素晴らしい。特に、特別支援教育コーディネーターを中心に組織的に対応していること、情報ファイルを有効活用していることは高く評価できる。学習意欲を向上させるため、ひとり一人の生徒が、見守られ支えられているという実感がもてるよう授業展開し、さらに授業研究をすすめていただきたい。
3	学校は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談を適切に実施している。	A	取り扱う事案が複雑で改善が進まない事例も多く、対応に苦慮しているものの、教育相談の専門家であるスクールカウンセラー、社会福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーとの連携が円滑に進むようになり、見通しをもって相談活動ができるようになった。	A	学校、家庭、地域、各関係機関が連携して取組まなくてはならない課題が増えている中、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携を円滑に進め、教育相談を見通しを持っており高く評価できる。特に、突発的事業の発生に対しては、カウンセラーやソーシャルワーカー等と連携して迅速に対応している。困った際の相談には、担任の教員、さわか相談室、カウンセラー相談があり、解決に向けて多様な選択肢がある事を広く情報提供し、教育相談を実施している事は、高い評価に値する。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	分掌組織は整っているもの一人一人に主任としての意識が十分醸成されているとは言えない。分掌組織の意義と学校運営上の位置づけを自己評価制度の活用を図りながら浸透させていく。	B	校長の経営方針に基づき、学年・学級経営が行われており、学校全体の指示、教務経営、学校だより等々により検証できる。校務分掌や主任制などは整った適切に機能している。職員が相互に連携しながら個々の役割を自覚し、主任・校務分掌を有効に機能させ、組織の運営に参画していただいている。教職員が相互に協力・連携して、分掌組織の意義と学校運営上の位置づけを自己評価制度の活用を図りながら、職務における責任体制を明確化にして業務役割を明確に円滑な遂行に努めていただきたい。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じてPDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	校長が掲げる目指す学校像に連鎖させながら各自が目標を立て、実践を重ねている。ただ、成果と課題の確認が、学期末に行われることから、計画の見直しが行えない面もある。	B	校長が掲げる学校経営方針に基づき、学年・学級・校務分掌が適正に推進されている。保護者や地域の声を聴きながら各行事に丁寧に取り組んでいる。加えて、学力の向上を目標に各教科指導において熱心であり、目標を具体的に明確して個々の課題に取り組み、日々実践を重ねている事は評価できる。PDCAサイクルの機能を有効に使い学校経営に努めており評価に値する。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	問題行動・安全教育・教育相談・保健・給食等、校務必須マニュアル・生徒指導上の確認事項として年度初めに全職員に周知し、共通理解を図っている。その結果、迅速な対応につながっている。事故の未然防止を効果的に進めるために、関連各部会の主任の対応力を高めることが課題である。	A	問題行動・安全教育・教育相談・保健・給食等、校務必須マニュアル・生徒指導上の確認事項として年度初めに全職員に周知し、共通理解を図った事は、組織運営において高く評価できる。事故や不審者の侵入等の緊急事態に備えて、各領域の危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制を整え、全教職員が一致協力して取り組む姿勢が、迅速な対応につながり、生徒、保護者、PTA、地域の方の関心を引き付け、評価の高められている。首都直下型地震や自然災害、不審者などの想定外の事故や災害に備えて、引き続き安心・安全を継続的に確保し、危機管理マニュアル等を再点検するなどして、迅速に対応できる体制を整備して欲しい。緊急時の連絡・ケガ情報についても迅速に保護者に伝え、不審者情報は、地域と連携して対策を繰り返す定期的な連絡会議を開催し迅速な対応を図り、システムを組織的に構築しており、学校への期待・信頼性も増しており、評価の値も高い。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	「授業の約束10ヶ条」は生徒に定着し、授業を受けるルールが徹底され、どの教科も落ち着いて授業を受けている。その一方で、円滑な小中接続を考慮に入れてルールの内容を精査する時期でもある。落ち着いた雰囲気の中で質の高い授業を展開するための授業規律の在り方を捉え直す必要がある。	B	どの学年の生徒も学習意欲を継続して維持しており、落ち着いた中で授業に取り組んでいる。「授業の約束10ヶ条」が定着し、授業を受けるルールが徹底され、授業規律も安定して保たれ、授業内容の質も向上し、学習意欲も向上してきている。生徒が「学びの価値」を発見し「学びの本質」である、主体的に学ぶ姿勢と学習意欲の基礎を育み、質の高い授業が展開されている。「ひとり一人」の児童生徒が、貴重な時間を学校で過ごし、質の高い授業に多く参加する事で、各教科を通して学びの価値を知り、継続的に学びの姿勢を持ち続ける学習内容の展開に期待したい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を充実した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	これまでの研究の成果を生かしながら授業実践を継続しており、言語活動の充実が図られている。また、学力向上プランにも明記し、計画的な指導を行っているところである。今後は、生徒の主体的な学びにつなげられるようさらに工夫していく。	B	学力向上を目標に言語活動を重視し、各授業で言語活動を意識した取組と工夫がみられる。全ての教職員が熱心に各教科運営の充実を努めており、生徒の積極的な授業姿勢の中に、その成果を検証できる。思考力、判断力、表現力を育むには、授業中で驚きの発見があり、授業内容が魅力的である事、授業展開に創意工夫が見られ事で学習意欲が前向きに向上し、充実した授業展開となる。この事項を踏まえ、継続的に努力を怠る事なく、授業研究に積極的に取り組む、魅力ある授業・教科づくりを目指し、自立性と主体性を重視した児童生徒の成長を促して、将来に向けて数多くの生徒の可能性を開花させるための授業研究をさらに進めていただきたい。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領等の趣旨に沿った効果的な学習指導が展開できるよう努めている。全国調査並びに県調査に表れる個々の生徒に係る学力・学習状況をさらに、きめ細かに分析し、実態に基づく授業改善を図っている。	B	文部科学省や県、市の方針に従って、言語活動を重視した中で充実した授業活動を展開し、各事項について真摯に取り組んでおり高く評価できる。近く道徳教育の教科導入が決定される中、新たな学習指導要領が行われる事から、国・県・市からの方針を受け、学校運営の観点から現状の分析を踏まえて、生徒の実態を考察し、学力の向上に努めていただきたい。また、生徒「ひとり一人」の個性や主体性を尊重して、学力、能力に即した学習指導を行い、基礎学力の定着、応用・発展的な学力の習得に結び付け授業に努め、知識習得へのプロセスを重視した授業展開に期待したい。
10	学校は、英語(英会話)の授業を充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	外部検定試験等を活用しながら、英語に関する関心、意欲を高めている。ただ、自ら進んで表現することにはやや消極的な面もあり、英語加配教員やAETとの一体となった指導を一層進めていく。	B	外部英語検定などの活用や大型テレビなど、様々な教材・教員を駆使して、英語や英会話への興味関心を高め、生徒が楽しく英語学習に取り組めるように工夫されており、評価できる。日常生活の中での英会話が行うことともに、英語教員、加配教員、ALTが協力して指導計画を行い、英語授業の充実にも、学習意欲の向上を図り、国際社会に強い人材を数多く育成していただきたい。学校内を歩くと、国際理解を感じさせる英語表現の学習展示が掲示され、学校全体で英語教育(国際理解教育の推進)に取り組んでいる姿勢が強く感じられ、英語教育の授業については高く評価できる。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導し、成果をあげている。	B	場に応じた言葉遣いができていないときにはその場で指導するよう全職員が心がけており、成果は着実である。ただ、学校外においては、「あいさつすることができない」との指摘がたびたびされている。教師が見本となり、場に応じた指導をできるようにするなどより一層言語環境の整備に努める必要がある。	B	あいさつ運動が定着しており、明るく元気な生徒の姿が学校にある。また、生徒間でも笑顔で穏やかにあいさつや言葉を交わす姿が見られ、人間関係が円滑になり、地道な指導の取組みの成果として評価できる。その成果は、教職員・来校者、生徒の自己評価の高さにあらわれている。あいさつ運動の成果は、校長を中心に教職員、家庭、PTAが一体となり取組んだ成果であり、学校教育の基盤ともなり、学校充実の原動力として成果を上げている。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	お互いが認め合えるよう道徳の時間の充実を図るとともに、自らの考えを進んで伝えたり、相手の立場を尊重して接したりすることができるよう指導している。生活アンケートを定期的に実施し、生徒の実態把握に努め、小さなことでも全職員で共有し、組織的にいじめの撲滅を図っている。	B	お互いが認め合えるよう道徳の時間の充実を図るとともに、自らの考えを進んで伝えたり、相手の立場を尊重して接したりすることができるよう指導しており評価に値する。道徳教育の充実を図り、生活アンケートを定期的に実施し、生徒の実態把握に努め、小さなことでも全員で共有し、いじめを早期発見し、組織的にいじめの撲滅を図っている。また、生徒会活動を活発に行い、いじめをなくし、友達の良さや努力を認め合って学校生活を送れる学校づくりを目指して整備していただきたい。
13	学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	教員自ら時間を守るなど、きまりやルールを守る必要性を理解させながら指導している。しかし、生徒自らが考え・判断し・行動するような自己指導能力の向上につながる指導場面が少ないことが課題である。	B	教員自らが時間を守り、教員自らが手本となるなど、きまりやルールを守る必要性を理解させながら指導している。規範意識を高めようとしていることが授業や生徒の自己評価の中から読取れる。今後も、常に規範意識を高め、学校として全職員が一丸となって規範意識の向上に努力してほしい。生徒に必要な理解させ丁寧に指導していただけると有り難い。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	体育科を中心に、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力を高めるための運動を組み合わせて、授業を行っている。また、部活動に積極的に参加するよう働きかけており、体力向上につながる指導を計画的に行っている。	A	体育科を中心に、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを維持する能力を高めるための運動を組み合わせて、授業を行っている。また、部活動に積極的に参加するよう働きかけており、体力向上につながる指導を計画的に行っている。また、部活動に積極的に参加するよう働きかけており、体力向上につながる指導を計画的に行っている。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	六中のきらきら健康指針「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーに栄養職員を中心に、委員会や家庭科の調理実習の授業と連携して、組織的に食育・健康教育を推進している。今後は、特別活動など学校教育活動全体の中でより一層体系的、計画的に指導していく。	A	六中のきらきら健康指針「早寝・早起き・朝ごはん」が示され、栄養士を中心に食育について意識を高めて、計画的に健康教育を推進しており高く評価できる。食育検討委員会や家庭科の調理実習の授業と連携して組織的に食育・健康教育を推進している。今後は、特別活動など学校教育活動全体の中でより一層体系的、計画的に指導していただきたい。廊下のポスター掲示からも、食育、健康教育に力を入れて、学校全体で取組んでおり、高い評価に値する。規則正しい食生活の大切さを伝え、成長期の栄養バランスとれた食事を心がける食育に取り組んでいただきたいが、食育に関しては、本来、学校よりも家庭にウエイトがあるので、体系的な指導は難しいものがあるが、家庭を巻き込んだ体系作りができるよう努めていただきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	地域夏祭りの巡回、野火止用水クリーンキャンペーン、地域防犯情報連絡会に教員や生徒が参加するなど、保護者や地域と触れ合う機会を確保に努めている。また、そうした場に出された意見や要望は、教育活動を振り返る材料として教員間で情報を共有し、指導に生かすようにしている。	B	地域夏祭りの巡回、野火止用水クリーンキャンペーンや地域防犯連絡会に教員や生徒が参加し、保護者、PTA、学校応援団、町内会の方々との交流を通して、保護者と地域との触れ合う機会を大切にしている。地域住民の声を聴き相互発展の機会を作り、学校への理解を促している。学校は、地域に広く開かれた安全対策のシンボル拠点として、地域住民に期待されており、その存在価値は高い。今後も、学校に寄せられる期待や声に適切に対応して、学校の活性化に努めていただきたい。学校に寄せられた意見や要望は、教育活動を振り返る材料として教員間で情報を共有し、指導に生かすようにしている。また、学校機能のデジタル化を活用して丁寧な対応を心がけ、地域の中から寄せられる声を大切にしたい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果、課題などについて定期的に情報提供している。	A	六中だより、学年・学級だより、保健・給食だよりを計画的に発行している。町内会等地域の方へも配布しており、学校公開の機会に来校される方も増加傾向にある。また、ホームページの更新も定期的に行っている。	A	六中だより、学年・学級だより、保健・給食だよりを定期的に発行している。教育活動の様子や成果、課題などについて定期的に情報提供されており、地域住民や保護者から好評を得ている。ホームページの更新も定期的に行っており高く評価できる。町内会と協議・連携し、地域に関わる学校だより(舟山小、石神小、新座中、第六中)を一括して回覧した結果、学校イメージの相乗効果が生まれ、学校と地域の関係が良好になっている。地域、保護者、PTAの中に、教職員が一歩踏み込み、教育活動の様子、成果、課題について、広く情報提供に努めている取組みが高く評価できる。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	本年度は、学校応援団への参加方法を変更し、自主的に参加する方が飛躍的に増えた。朝のコミュニケーション運動には、150名規模の参加があり、生徒への声掛けも活発に行われている。自主防犯組織「わんわんパトロール隊」に学校応援団として参加する保護者も増えており、主体的な活動が広がっている。	A	学校応援団への参加方法変更した結果、自主的に参加し行動する生徒が飛躍的に増えている。朝のコミュニケーション運動には、150名規模の参加があり、生徒への声掛けも活発に行われてきており、高く評価できる。また、学校応援団の意義と存在を地域住民の方々に知らせ、周囲からの参加者を増やし、保護者、地域住民、PTAがスムーズに連携できるように参加方法を変更し、学校応援団全体の視野を幅広くした。自主参加する雰囲気を作ることが、参加者を増やし、全体的に一体感を高める力となり、高い評価を得ている。このような取組みを継続的に発展させて来た事が、不審者対策、清掃美化活動、あいさつ運動、コミュニケーション運動、声かけ運動などが計画的に実施出来るようになり、生徒、保護者、地域との連携を促すに至っており、良好な人間関係へと発展する道筋がひかれ学校における校風の質が一段と向上し学校に対する期待感あり評価も高い。